利根川

―空からみた―

岩波写真文庫 136

利根川 136

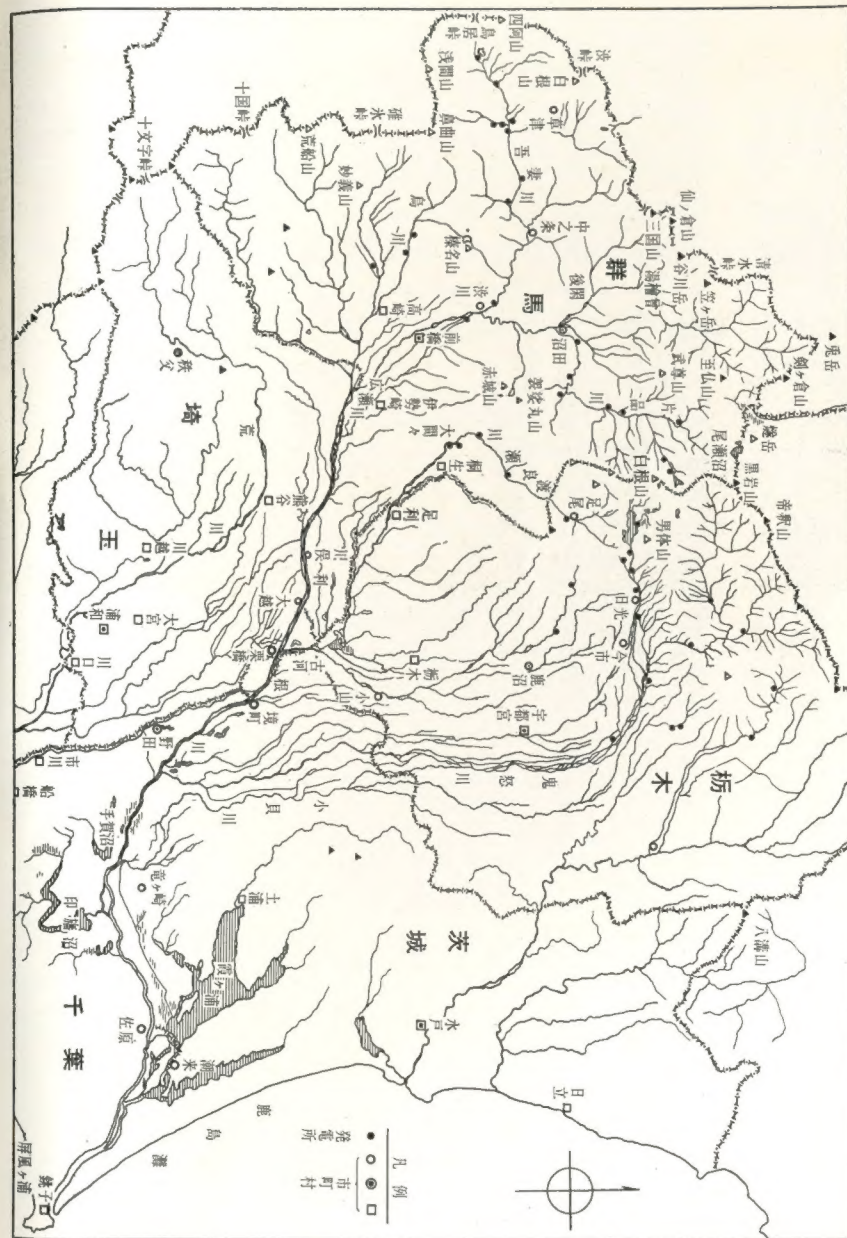
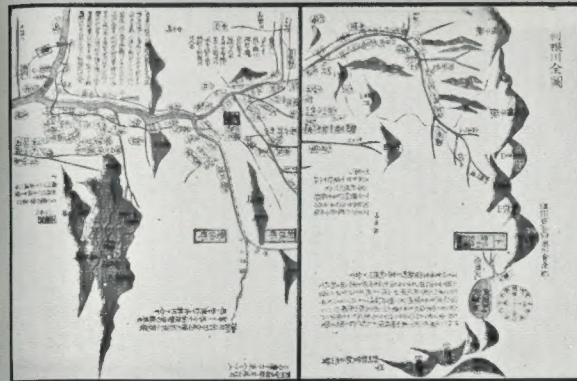
岩波写真文庫 136 利根川

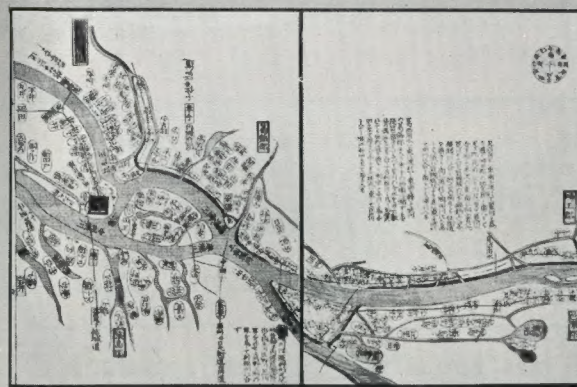
—空からみた—

編集　岩波書店編集部　　写真　岩波映画製作所

利根川は日本第一の大河である。日本第一の平野をうるおしている。内地の一割に及ぶ電力を発している。世界にも類のない大改修工事が、徳川初期に行われ、昔の流路を全く変えてしまった河である。明治に初まった補修工事で動かされた土の量が、パナマ運河で動かしたものと匹敵している。そしてひとたび怒れば、何十万町歩を泥海と化し、数万軒という家を流し去る。堤防の長さは支川も合わせると、一七〇里に及び、黄河と同等である。我々はこのような河の姿を空から望みながら、河口よりさか上って本流筋に沿いつつ、水源地に向かって探ってみる。地理調査所五万分の一地図をつなげれば、一七枚の行程である。試みに地図と見くらべつつ利根一帯の地形を観望するのも、また楽しいだろう。写真説明末尾にはその地図名を附しておいた。

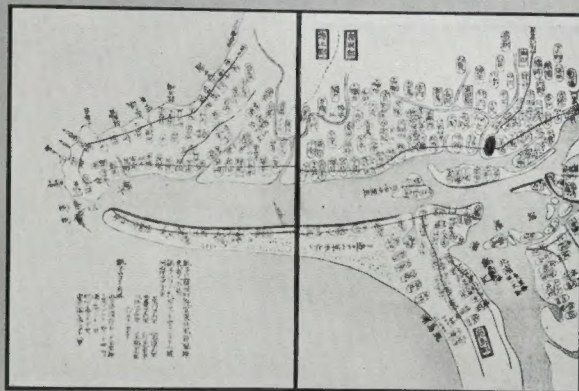
目　次

定価 100円 1955年1月25日発行　発行者　岩波雄二郎　印刷者　米屋勇　印刷所　東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社　製本所　永井製本所　発行所　東京都千代田区神田一ッ橋2ノ3 株式会社岩波書店

利根は刀禰とも書き、水源地に尖峰が多い「利きみね」の意だという。物の冠たるを称揚する詞ともいう。大河を意味するアイヌ語のトンナイからでたともいう。また古人は利根川を坂東太郎とよび、筑後川の筑紫二郎、吉野川の四国三郎と並び称した。坂東とは足柄・碓氷以東の諸

国をさし、近ごろは関東といっている。関東の地は西と北に山をひかえ、東と南は海に面した大平野である。西方の山は関東山地で、その南に丹沢山地がつらなる。北西の山は足尾山地で、その北に日光火山群があり、北方の山は帝釈山脈で、その東に那須火山群、西には三国山脈が

ある。東北方の山は八溝山脈で、その東に阿武隈山地がつづいている。平原は、二〇—一五〇米の高さの台地と、河流によって形成された沖積地とにわけられる。関東の気候は一般に温暖で、夏の最高気温は二九—三六度、冬の最低気温は一—氷点下一二度、平均年雨量は一、一〇〇

—一、二〇〇粍、一日の最多雨量は山地に多い。これらの水を集めて久慈・那珂・利根・荒・多摩・鶴見などの河川が流れるが、筆頭が利根川である。群馬県利根郡水上村の大水上山に発し、片品川、吾妻川などを合わせ、渋川で平野にで、下って烏川、渡良瀬川を合わせ、江戸川

を分ち、鬼怒川、小貝川、印旛沼、霞ヶ浦の水を集め、銚子から鹿島灘に注いでいる。この間、本川の長さは二九一粁、更に支川二三九と派川二二を含めると、四、八〇五粁、流域面積は一五、四四三平方粁、年総水量一二〇億トン、流出量と降水量（一九五三年湯原で一、九六五粍）

の比率（流出率）は〇・六となっている。利根川が流域の小さいわりに水量が多いのは、この流出率がいちじるしく高いためで、洋々たる利根の水は関東一円二一万町歩の水田を灌漑し、七・七立方米毎秒の飲料水を供給し、山間部では、最大五七万キロワットの電力を発している。

図版は「利根川図志」より

鹿島浦．鹿島灘に面した長汀（銚子）．

関東平野の東端，銚子半島の北側に利根川口が開いている．

屛風ヶ浦．半島の南面は50ｍの断崖（銚子）．

銚子半島を九十九里浜側から望む．燈台のあるのが犬吠崎．半島北側に利根川口が見え，その向うに鹿島灘が続く（銚子）．

銚子市．河口の右岸(銚子)．

銚子半島突出部は，口狭く中広い酒器の形に似ているので，その名があるといい，昔は注子，鳥嘴とも書いた．寛永，正保の頃，紀州人がこの地に来住し漁業を初めてからしだいに殷盛となり，幕府下には東北の諸藩からの廻米船が必らずこの港に寄港し，利根川を溯って江戸へ入った．元禄年間には廻米船183石の入港という．

利根川河口．右手の岩礁は千人塚(銚子)．

銚子港．魚市場のあたり(銚子)．

銚子の醤油工場(銚子)

波崎の町．河口の左岸(銚子)．

寒暖乾湿の差の少ない銚子は関東醤油の本場で聞えているが，業者には湯浅方面の出身が多い．瀬戸内から江戸への廻塩が初まった時，江戸の繁栄を見越してやってきたのだろう．このような江戸への関門も幕末には不振となったが，明治7年に利根定期船が通い，40年頃には遠洋漁業の発動機船が増し，昔の勢をもどした．

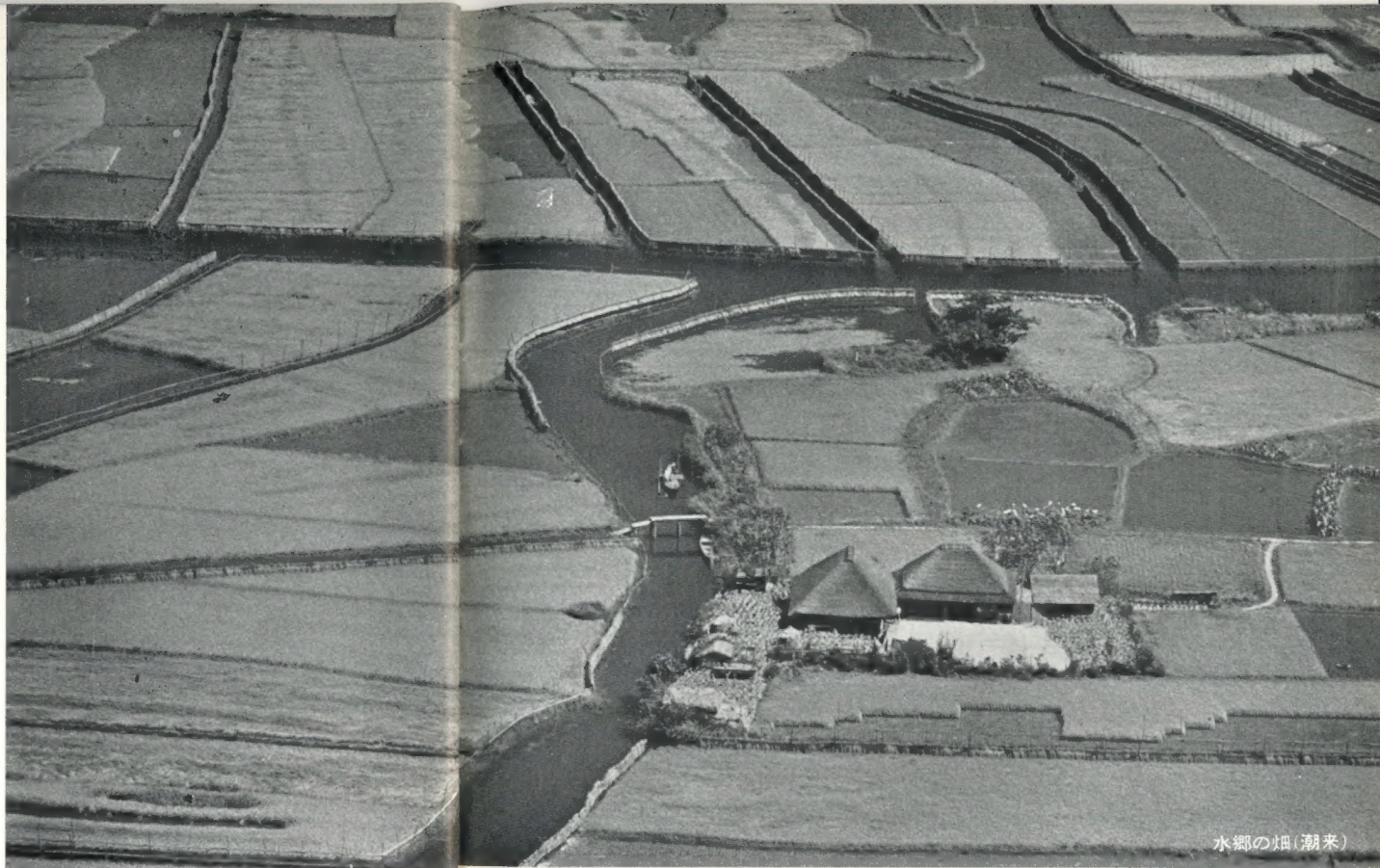
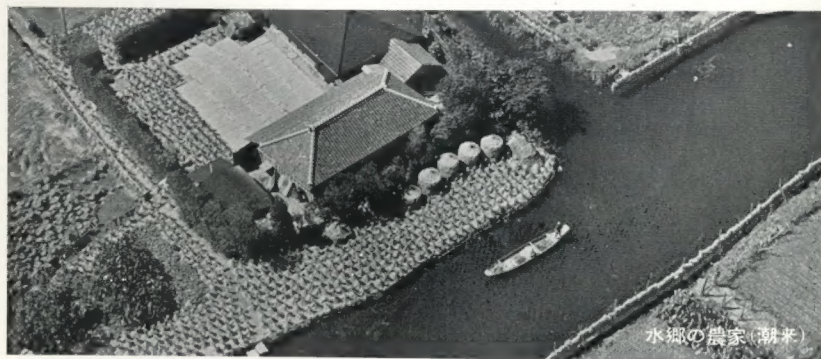
東今泉浜附近．浚渫船（八日市場）．

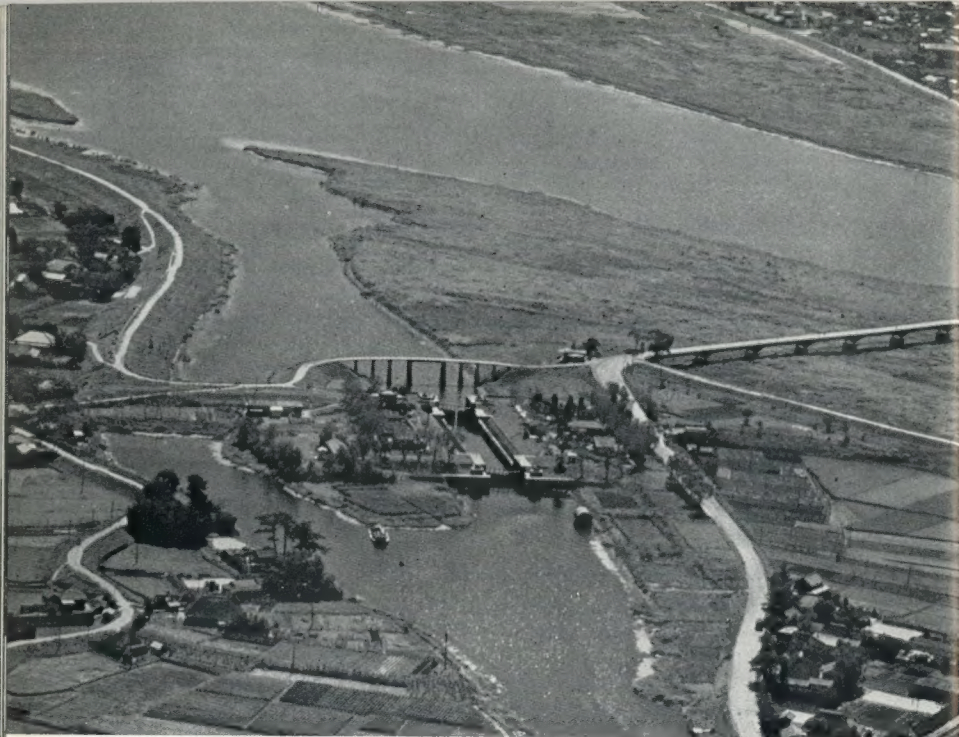
川口近くの川幅は1.5km，澪筋は右岸により東笹本で最深部4.5m，下森戸で5.5m．上るにつれ澪筋は左岸により，太田新田附近の屈曲部の左岸は蚕食され，右岸に堆砂が進んでいる．

太田新田附近の砂洲（八日市場）．

成田線椎柴駅附近より河口を望む（銚子）．

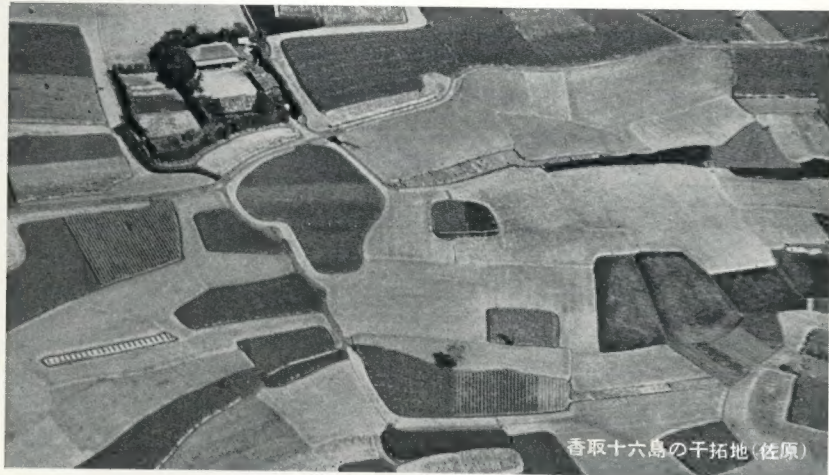
潮来町．河は北利根川．

霞ヶ浦の南をよぎって利根川を上る．この辺は昔，香取浦とよばれた沼沢で，利根川は佐原附近から十六島という種々の洲渚を縫い，随所に乱流していた．十六島は天正年間に開拓されたが，そのとき横利根，北利根の運河が，自然に残った．そして平時は霞ヶ浦の水を利根川に排除したが，洪水には逆に河の水を霞ヶ浦に戻して遊ばせた．この北利根沿いの潮来の町は所謂「水郷」情緒豊かで，その名はアイヌ語のイトコ，沼尻の意だという．

水郷の畑(潮来)

水郷の農家(潮来)

水郷の農家(潮来)

水郷大橋．左に分かれる川は横利根川，佐原市がみえる（佐原）．

利根川と横利根川とが合する対岸に佐原市がある．下利根第一の都会で，市を貫流する小野川の両岸は米穀，貨物の揚卸が盛んである．小野川護岸は天保12年，伊能忠敬の施行という．

香取十六島の干拓地（佐原）

今でこそ佐原から小見川までは一條の利根水路が続いて，霞ヶ浦や北浦と絶縁されているが，利根川東遷以後，明治初年まではまだ香取浦の名残を止め，多くの洲渚が洪水を停滞させた．

香取十六島の干拓地（佐原）

手賀沼．利根の右岸，布佐町西南方にある沼沢地(竜ヶ崎)．

布川，布佐間で利根川の幅はぐっとしぼられる．ここは利根川変流の時，高台を掘りわって，利根川の水を落したところ．河口からこの附近までの川筋一帯は「下利根」とよばれている．

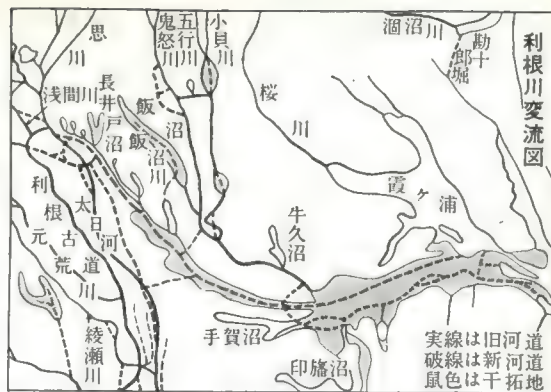
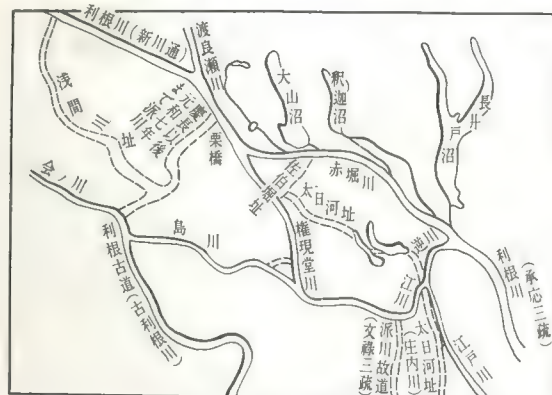
手賀沼は東西 18 km，南北 5 km，面積 159 km²(竜ヶ崎)．

栄橋を上流よりみる．「下利根」

取手より上，布施の渡しから上流を見る．取手から鬼怒川合流点までの川筋は利根川の游水池の作用をしている．堤防は遠くつらなり，ひろい河原に洪水を遊ばせるという(竜ヶ崎)．

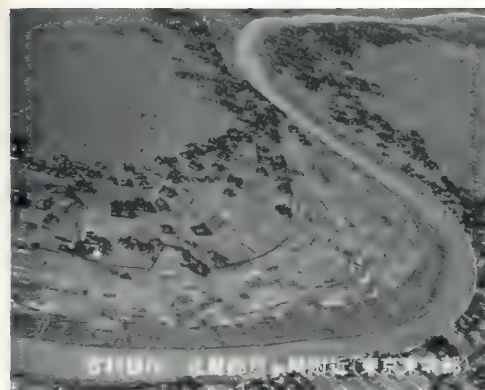
取手町(左岸)まで上ると，ここに常盤線鉄橋と陸前浜街道の鉄橋が架けられてある．取手は初め「砦」と書き，大鹿氏の砦があったというが，後に「取出」とも書かれた(竜ヶ崎)．

鬼怒川との合流点．右が鬼怒川（野田）．

現在の利根川は栗橋から東流し、銚子で太平洋に注いでいるが、今から三五〇年ほど前まではそうでなかった。川俣あたりまではほぼ変わりないが、それから下は会ノ川筋を東南に流れ、大桑村川口に達して今の古利根川筋を流れ、高野川と称して杉戸を通り、吉川で荒川を合し、新宿から西南に向って古隅田川筋に入り、隅田で入間川を入れてからは浅草川とか隅田川とよんで東京湾に注いでいた。したがって荒川も入間川も利根川の支流にすぎなかった。一方、現在利根川の支流である渡良瀬川、鬼怒川はまったく別の流れであった。渡良瀬川は古河の西を南下、太日河とか大井河とかよんで、野田までは今の江戸川の西側を流れ、野田からは江戸川筋を流れて東京湾に向っていた。鬼怒川は騰波ノ江で小貝川を合し、竜ヶ崎の南で谷原、葦原とよばれた湿地帯に入り、ここで広河の水をいれ、末は香取海、若松浦とよばれる一大湖沼（霞ヶ浦の前身）を作って鹿島灘に注いでいた。当時、江戸では徳川三百年の基礎工事が営々として計画され、川を治める者は天下を治める意味から、幾度も真向に利根川の氾濫水をうけていた江戸の洪水

防止策は焦眉の急にあった。また、東北の雄、伊達藩に対する防衛の要もあり、古利根沿岸の冠水地を自給自足の美田に化する利点もあり、徳川幕府は利根川の流路を東へ東へとつけかえ、鹿島灘に押しやるという大土木工事を敢行することとなった。この大工事は文禄三年から承応三年に至る前後六〇年間に亙って行われた。まず文禄三（一五九四）年、利根川会ノ川を川俣で締切り廃川とし、大越村外野から大桑村川口に通ずる浅間川を幹流に代えた。更に川口から東に走る旧川を利用して利根川の水量の一部を太日河に放流させた。その後、利根の幹川も派川もようやく塞り、洪水の疏通を害したので、元和七（一六二一）年、大越、境間に新川通、赤堀川をうがって、利根の幹流を太日河の流頭に合せしめた。同時に、新川通の終点から東へ派川を掘り、毛野河の支川だった広川（常陸川）の水源に押し流す方策をとった。こうして渡良瀬川は利根川の流れに横断され、利根川の支流に変わってしまい、その下流部の太日河は利根の派川ということになった。と

隅田川・東京両国附近（東京東北部）

ころが、赤堀川は細流の上に地勢が緩勾配だったため、排水が十分にならず、利根川と渡良瀬川の水の大部分は依然として権現堂から江戸川筋に流れ下った。そこで赤堀川を拡張し、逆川をうがって、広河へ水を導き、権現堂からは赤堀川に通じる佐伯堀を疏し洪水を分派させた。が、佐伯堀も逆川も不自然な水路なので利根川の水を広川へ放つというわけにはなかなかゆかず、洪水は太日河に集って

[illegible]

荒川．荒川放水路が分流している(東京西北部).

下流一帯に惨害を及ぼした。こうして寛永一八(一六四一)年、江戸川が掘られることとなり、ついで承応三(一六五五)年、赤堀川の水深を増したので、初めて多量の洪水も広川筋に排水されるようになり、利根川の流路はついに鬼怒川の流路を奪って東流し、かつて東京湾を出口にしていたものが一転、鹿島灘に注ぐという一大変流を示すこととなったのである。この時以来、古利根川筋の田野は大いに拓けたが、一方、中利根以下はたえず水害を蒙る仕末となった。元来、利根の改修は自然の理に反するもので、関宿から江戸までは一五里なのに、関宿から銚子までは三〇里、そのうえ緩勾配だから、中利根、下利根はいつまでも洪水がとどこ

江戸川．東京[illegible]見島附近(東京東北部)[illegible]

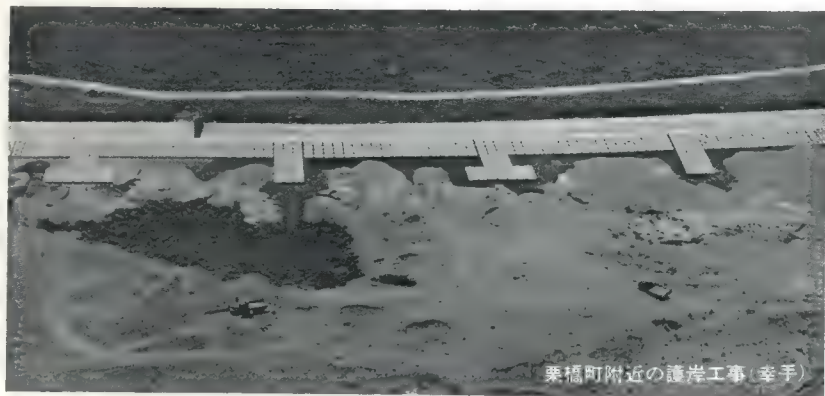
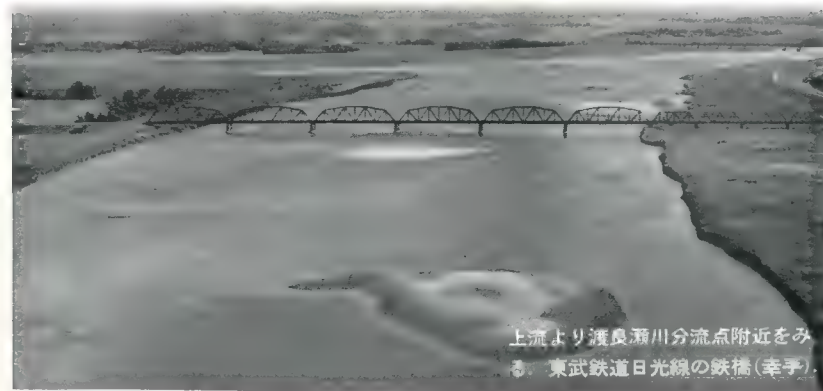
おってしまう。利根川の大洪水は約一〇年に一回と称せられ、ことに寛永、天保、天明、弘化の水害は激しく、幕府はしきりと改修を重ねたが、嘉永、安政ともなると内外多事で治水を顧る暇もなかったため、河道は乱れ、改修以前の河状そっくりの様子になっていた。明治維新後、政府はオランダから技師を招き、改修を企てたが、低水工事を主としたため、耕地宅地は増したが洪水を防ぐことにはならず、明治三三(一九〇〇)年に改めて洪水防禦工事に着手した。工事の進行中、明治四三年に大洪水に見舞われ、計画高水流量毎秒三、七五〇立方米を五、五七〇立方米に増す必要を生じたので、既定の計画を拡張し、利根川筋二〇四粁、支派川筋一五六粁の広範囲に改修を進めることにした。この間、堤防に使用した土量八千万立方米、浚渫した土量一億四千万立方米、パナマ運河のものと匹敵し、昭和五(一九三〇)年にようやくその竣功をみた。一方、大正一二年から十九年計画の増補工事も進み、また昭和一〇年の異常な洪水の結果、新放水路(我孫子・東京湾)開鑿を含む新しい計画が昭和一四年以降十五年間の予定で起工された。

江戸川分流点．下流より見る．手前が江戸[illegible]水[illegible]

境町から下流の流路は昔，鬼怒川の支流であった広河の筋である．広河は大山，釈迦，長井戸の沼沢の水を集めて東流し，蘭沼を経て，手賀沼を合わせてから鬼怒川に注いでいた．承応3年の工事によって，この川筋は利根川のものとなった．平将門は，葦津江(長井戸)の辺を遊び，広河の流れにも船を浮かべ，横橋を京の山崎にたとえ，相馬大井津を京の大津に擬したほどだから，当時の蘭沼は大きな湖沼だったのだろう．境より上にある木間ヶ瀬は将門が馬で渡渉した「騎馬ヶ瀬」の変化だという．

[illegible]橋町．[illegible]の利根川橋(幸手).

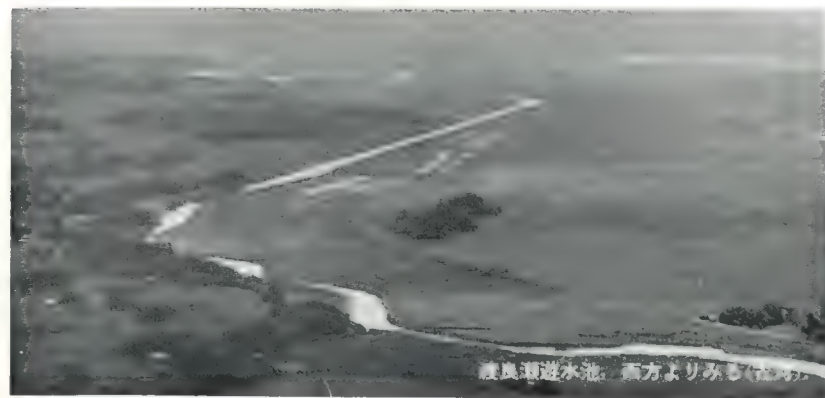
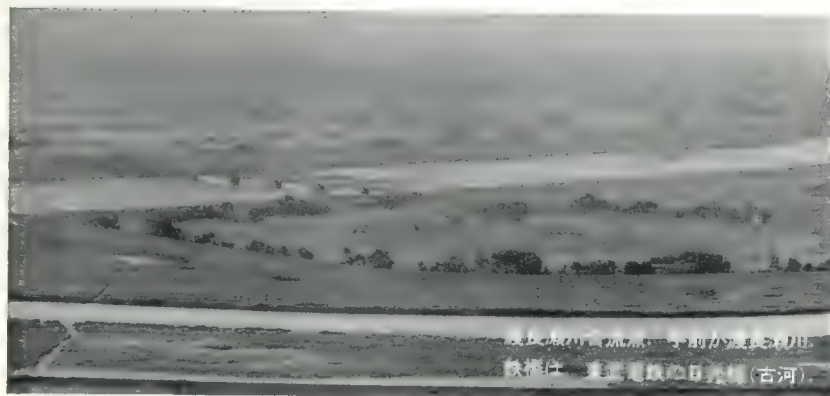
布佐から栗橋までが「中利根」とよばれ，栗橋上流は「上利根」である．ここには昔，幕府の関所があり，日光所参の将軍がこの川幅180間の間に高瀬舟51艘を並べ，舟橋を架したという．現在，横断する東北線鉄橋は利根川架橋の嚆矢，当時スパン100尺の計画を，土木局雇工師ムルデンが治水上200尺必要と主張したもの．栗橋附近はしばしば利根洪水の最高水位を示し，昭和22年カスリン台風では，東村地先を破った濁流が東京にまで及んだ．

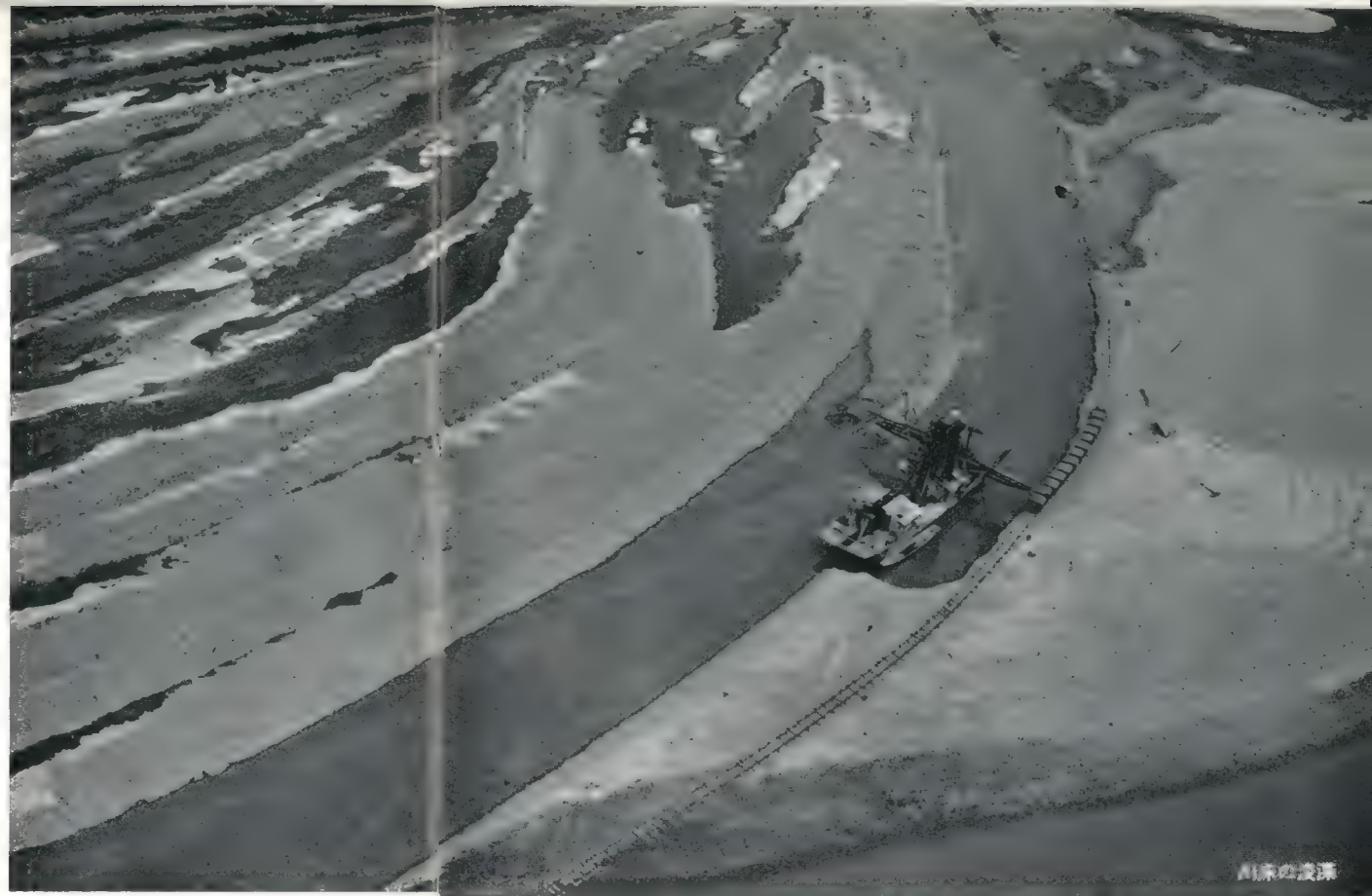
栗橋町下流の右岸(幸手)

栗橋町附近の護岸工事(幸手)

上流より渡良瀬川分流点附近をみる．東武鉄道日光線の鉄橋(幸手).

渡良瀬川合流点より北方,
遊水池方面をみる(古河).

渡良瀬川と利根川との合流点にある大遊水池は明治44年の利根補修工事によって作られた. 赤麻沼を中心とする面積は3,500町歩. 低地の周囲に堤防をきずき, 渡良瀬川の洪水や利根川の逆流1.7億立方米を一時ここに遊ばせて調節した.

[illegible]川合流点. 手前が渡良瀬川.
鉄橋は, [illegible](古河).

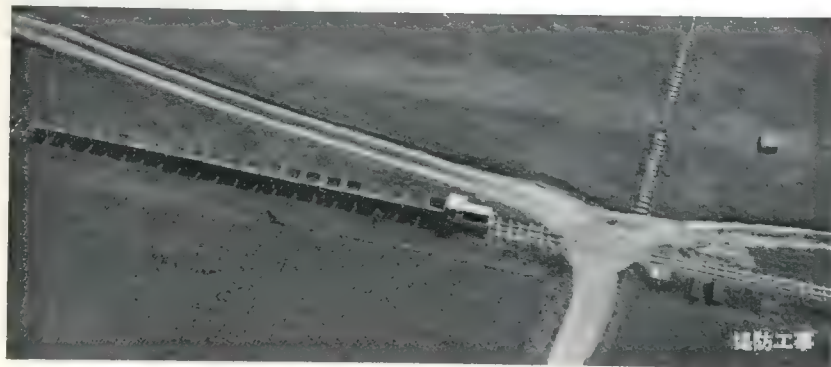
渡良瀬遊水池. 西方よりみる(古河).

堤防工事

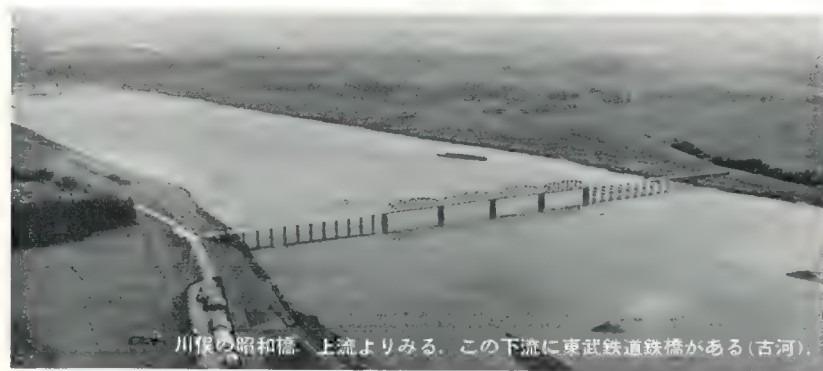
渡良瀬川合流点から上流，芝根村附近までの間は洪水の度に流量が異常に増す川筋である．昭和14年の改修計画では毎秒１万立方米の水量を通すように，河幅，堤防の高さ，河床の深さが講じられた．これは昭和10年洪水の教訓に基づいたものだが，昭和22年カスリン台風の洪水はじつにこの 1.5 倍の水量であった．

川床の浚渫

堤防工事

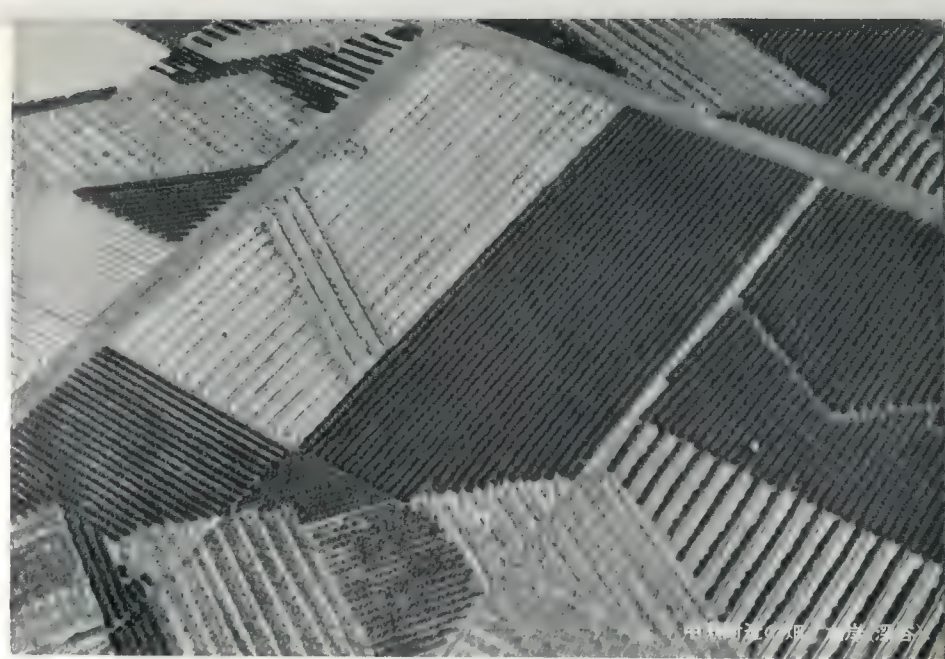
堤防工事

見沼代用水取入口．右岸(深谷)．

[illegible]

[illegible]川俣間の[illegible]部．大[illegible]上流をみる(深谷)．

川俣より少し上流の右岸，下中条から，見沼代用水が引かれている．享保13(1728)年，日光門主が将軍吉宗をうながして見沼溜井を干拓して耕地を開いた時，それまで溜井から灌漑用水をとっていた沼南の土地が水源を失うことになったので，代わりにこの用水を掘った．これより更に上った左岸の妻沼は昔の長井の渡で，河港として繁栄したところ．初め船橋が架けられたが，大正10年に木桁橋になり妻沼大橋と命名された．その対岸から下流に連なる堤防は文禄4年築造，利根川の大規模な堤防の嚆矢という．

川俣の昭和橋．上流よりみる．この下流に東武鉄道鉄橋がある(古河)．

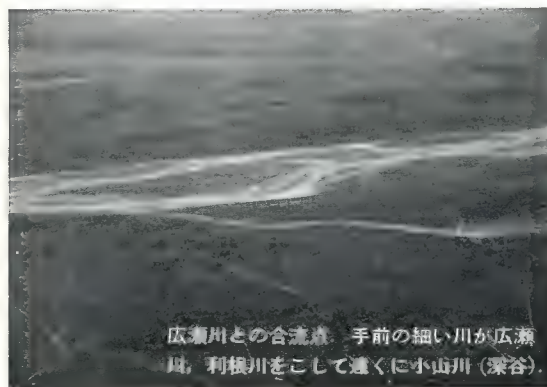
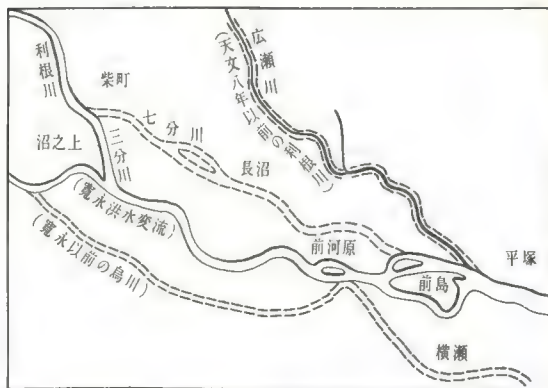
上流より坂東大橋をみる（高崎）

烏川合流点よりやや上流．右岸一帯（深谷）．

慶長12年の江戸城修理のとき，上州の栗石を運んだ中瀬の渡津を経て，むかし日光例幣使街道の関所があった烏川合流点の少し上まで，このあたりで平地河川の特相も見おさめとなる．

妻沼下流の点景（深谷）

[illegible]より上流、烏川合流点[illegible]

大陸の河川は一般に、流域が広い割合に高水流量が少なく、黄河などは利根川の約五・五倍という流域面積をもちながら、洪水の流量は毎秒二、三万立方米にすぎない。下流の山東省に入ってからは、洪水量が毎秒一万立方米以上になったためしがない。ところが日本の河川は意外に洪水の量が多いもので、昭和一〇(一九三五)年の洪水では利根川の最大水量が〇・九五万立方米(栗橋)、昭和二二(一九四七)年のカスリン台風では、一・四万立方米(川俣)に達した。また最高水位は昭和一〇年で八・七米(押付)、昭和二二年で九・二米(栗橋、計画高水位七・六米)であった。現在、利根川流域にはカスリン台風の教訓によって洪水予防組織が造られ、荒川水系も含めて雨量観測所三八、水位観測所二二が設けられ、中央気象台、関東地方建設局に向って連絡をとりつつ、洪水の水位の予報を行っているが、治水施設の不備だった頃には、莫大な水量が土堤を破壊し、地勢に従って自由奔放に変転したであろう。利根川筋の島村というところでは、寛永年間から明治一六年までの三〇〇年間に、流路がじつに一一度も変わったという記録がみえる。それから少し下流の尾島附近もまた同様で、

昔の河道は今より少し北、堀口、押切の村々を流れていたが、寛保二年の大洪水で、小山川の流末にある高島村と、現在この対岸に当る小屋村との間で二流となり、一は旧川に沿って東北に向い、一は石塚から小山川の流路を奪って出来島で旧道に交ったという。これ以来、小山川の合流点は出来島から高島村に移ってしまった。また烏川との合流点八町河原と、広瀬川との合流点平塚の間は、昔、「烏利根」とよばれていたことがある。これはこの間の流路が、時には利根川であり、時には烏川であったためである。寛永以前には烏川は島村前河原で利根川に合流していたが、寛永元年の洪水で北側に移り、だいたい現在のように忍保と八町河原との間で利根川に合するようになった。ところが天保元(一六八〇)年、合流点附近に土砂が堆積して、利根川は北によって新たな流路を作り、柴町から長沼を経て、平塚で烏川に合するようになった。さらに寛永二年には洪水防止策として沼之上から八町河原に横渠を掘って洪水を分疏したため、この水が八町河原の耕地

広瀬川との合流点．手前の細い川が広瀬川，利根川をこして遠くに小山川（深谷）．

広瀬川．上流よりみる．遠くに利根川（深谷）．

をまともにつく事になり、訴訟が起った。裁きの結果は、沼之上、八町河原の水路には水量の三割を流し、東に走る水路には七割を流すことになり、この時から幹流は三分川、派川は七分川とよばれるようになった。ところが利根の大半を七分川に流すのは、地勢の点から無理な事だったので、天明三年、浅間噴火の降灰が

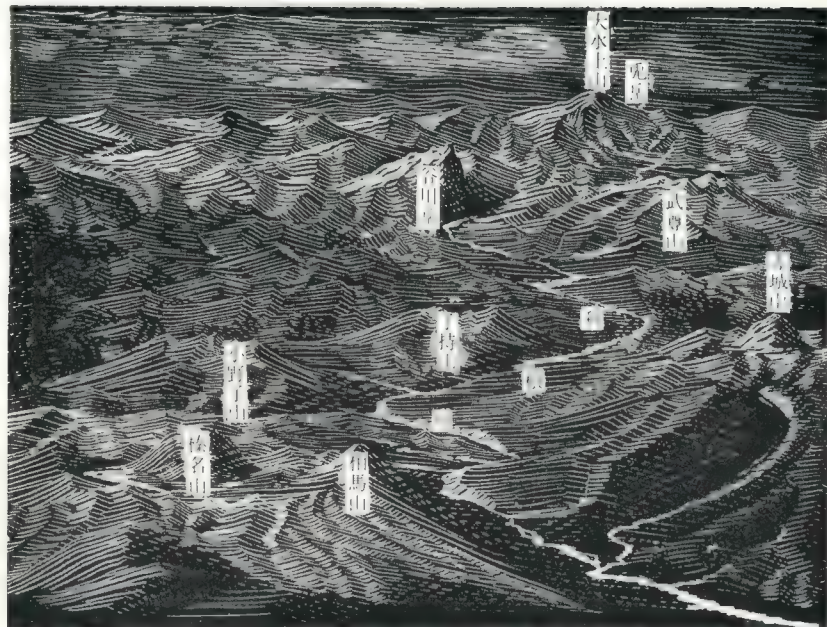
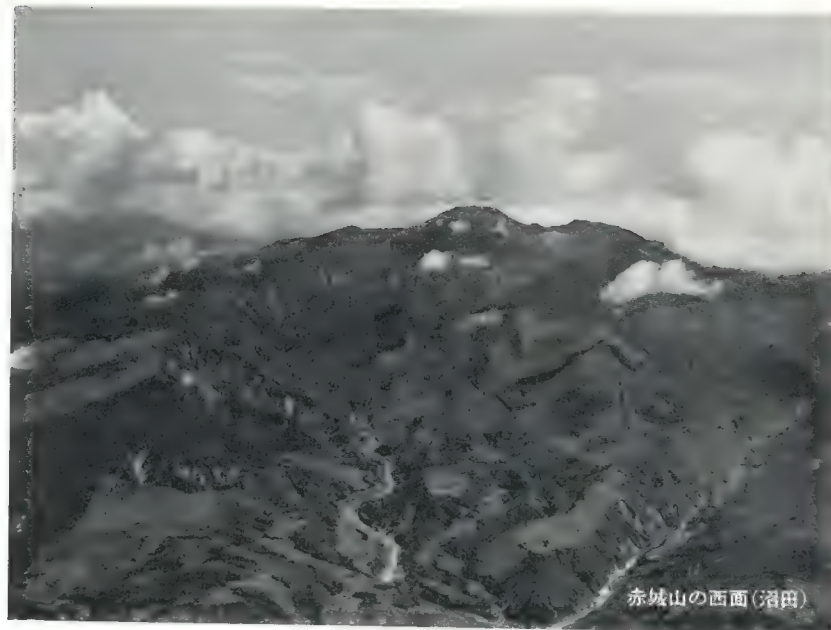
沼之上よりやや上流にかかる吊橋(高崎).

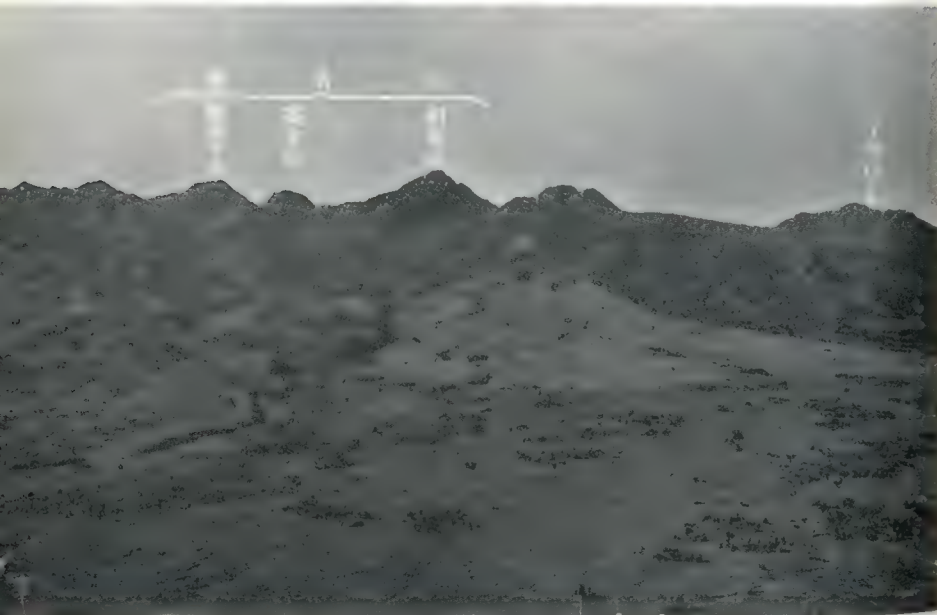
七分川を埋めた結果、またまた沼之上・八町河原の河道が幹流に変じたのである。こうした烏利根の北側にはいま広瀬川が流れている。この広瀬川はまたさらに昔の利根川の古道だという。その頃の利根川は勢多郡南橘村から左に折れ、前橋市の東方から今の広瀬川筋を流れ、群馬駅とよばれていた前橋市中を貫流し、駒形、

伊勢崎、境を経て、平塚で烏川を合わせて、比刀禰川と称せられていた。比刀禰とは、都から帰ってきた里人が群馬の里で人と寝るという意を、刀禰にかけて比刀禰といったのだろうという。このような昔の河道は天文八(一五三九)年か天文十二(一五四三)年の洪水かのときに今の流路に切れこんだものと思われる。

前橋の北方，坂東橋を上流から見る．そのたもとから広瀬，桃之木の用水が導かれる．利根川もいよいよ山地に入る．利根川流域は平地5割8分，山地4割2分となっている(前橋)．

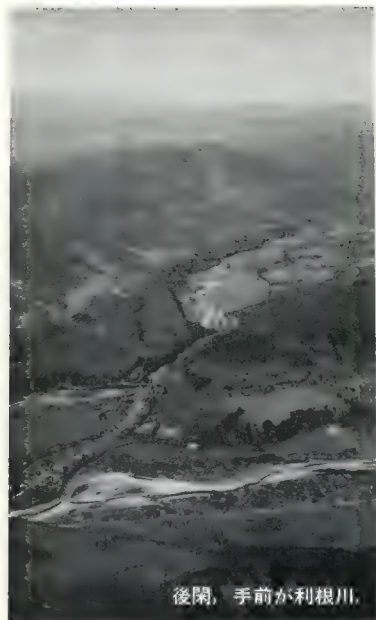
渋川町から上流は赤城山，子持山が迫る嶮崖下を蛇行．河幅は70～250 m，勾配 $\frac{1}{140}$ 内外となる．また上り，沼田南方で片品川が左岸に合流．ここから奥の利根川を「利根入」という．

綾戸の嶮崖．大久保附近から上流を見る（沼田）．

榛名山(1,448)．北に吾妻川，東は利根川を隔てて赤城山と対立する成層火山．頂上は外輪山と中央火口丘を示す二重火山．火山活動の余勢は蒸風呂噴気孔と伊香保温泉とに残る(沼田)．

赤城山の西面(沼田)

赤城山(1,842)．渋川・沼田間で利根川を隔てて榛名山と対峙する欠尖円錐形火山．北に片品川，東に渡良瀬川，山頂に火口原湖．その活動は休止，樹木茂り，裾野は草に被わる(沼田)．

沼田市，赤城山の西北麓，三峰山の東麓，利根川左岸（沼田）

沼田市南方戸鹿野，利根川を渡る鷹石橋（沼田）

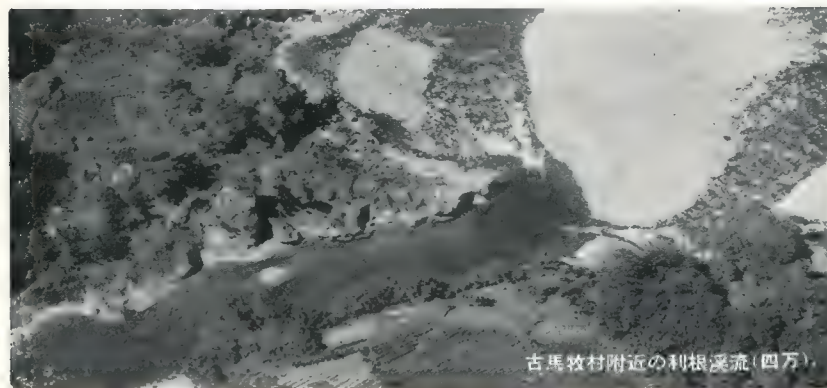
片品合流点より約2 kmの左岸に沼田市．昔この一帯は沼だったが，諏訪（すわ）神が干して陸とした
という．沼田の北で武尊（ほたか）山（2,158）に発する薄根川が合する．武尊の山霊，保高（ほたか）神は治水の神．

沼田市南方戸鹿野，利根川を渡る上越線鉄橋（沼田）

後閑，手前が利根川．

沼田から河幅100～300mで溯り，月夜野で赤谷岳（1,878）に発する赤谷川が右岸に合流する．赤谷川の下流はじつに乱流，利根川との出合い附近は洪水の度に決潰し，流身が漸次移動している．その吐口での河床勾配は$\frac{1}{80}$，河幅は100～300 m.

古馬牧村附近の利根渓流（四万）．

後閑より下流をみる．右から赤谷川が合流し，前方に赤城山（遠頁，四万）．

後閑の[illegible]，月夜野附近（四万）．

後閑・水上間，木ノ根町附近より下流をみる．前方に小松の発電所がみえる(四万)．

後閑の北，月夜野に茂左衛門の処刑地がある．彼は沼田藩の農民が藩主真田に苦しめられるのをみて上野輪王寺宮に訴願，願いは聞かれたが越訴の罪で利根河原に妻と磔殺された．

[illegible]上越線(四万)

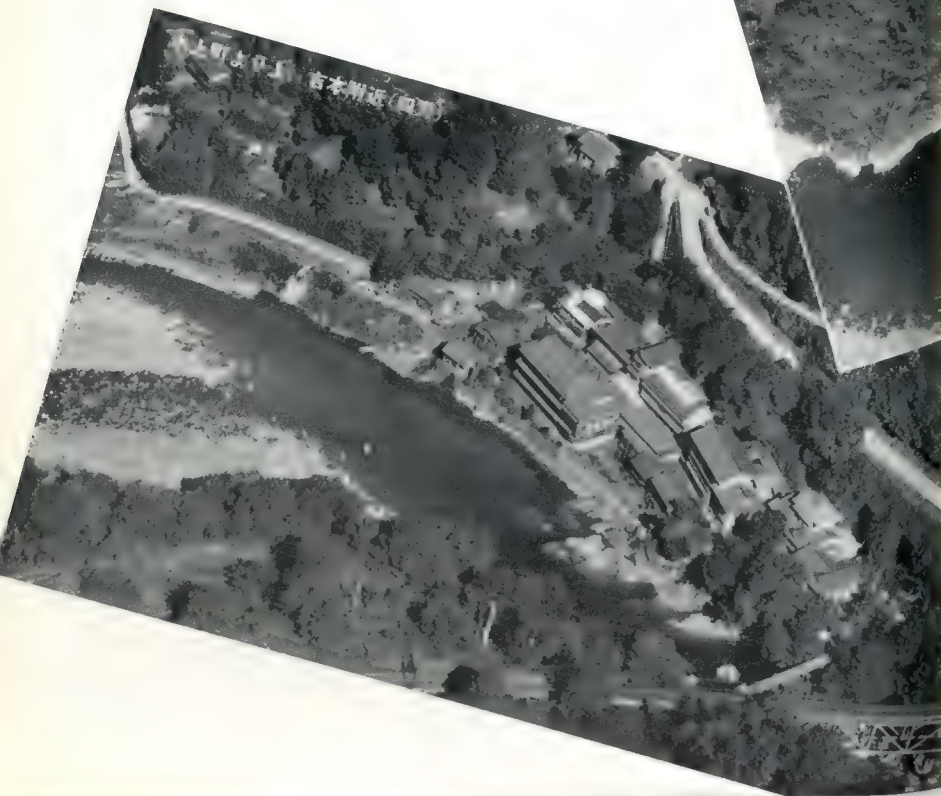
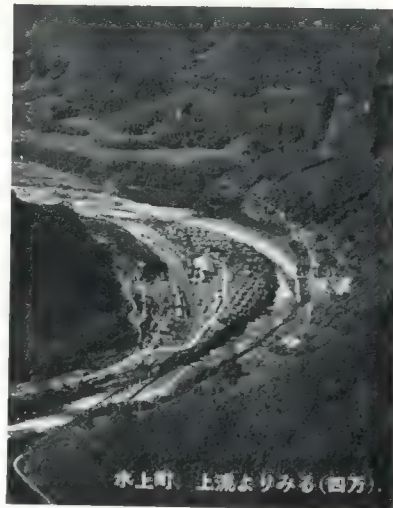
右岸，古馬牧村小松の発電所[illegible]

[illegible]

利根川は後閑から吾妻耶山，大峯山を西に，高檜山，三峰山を東にした渓谷の下を，真北に向ってさか上る．

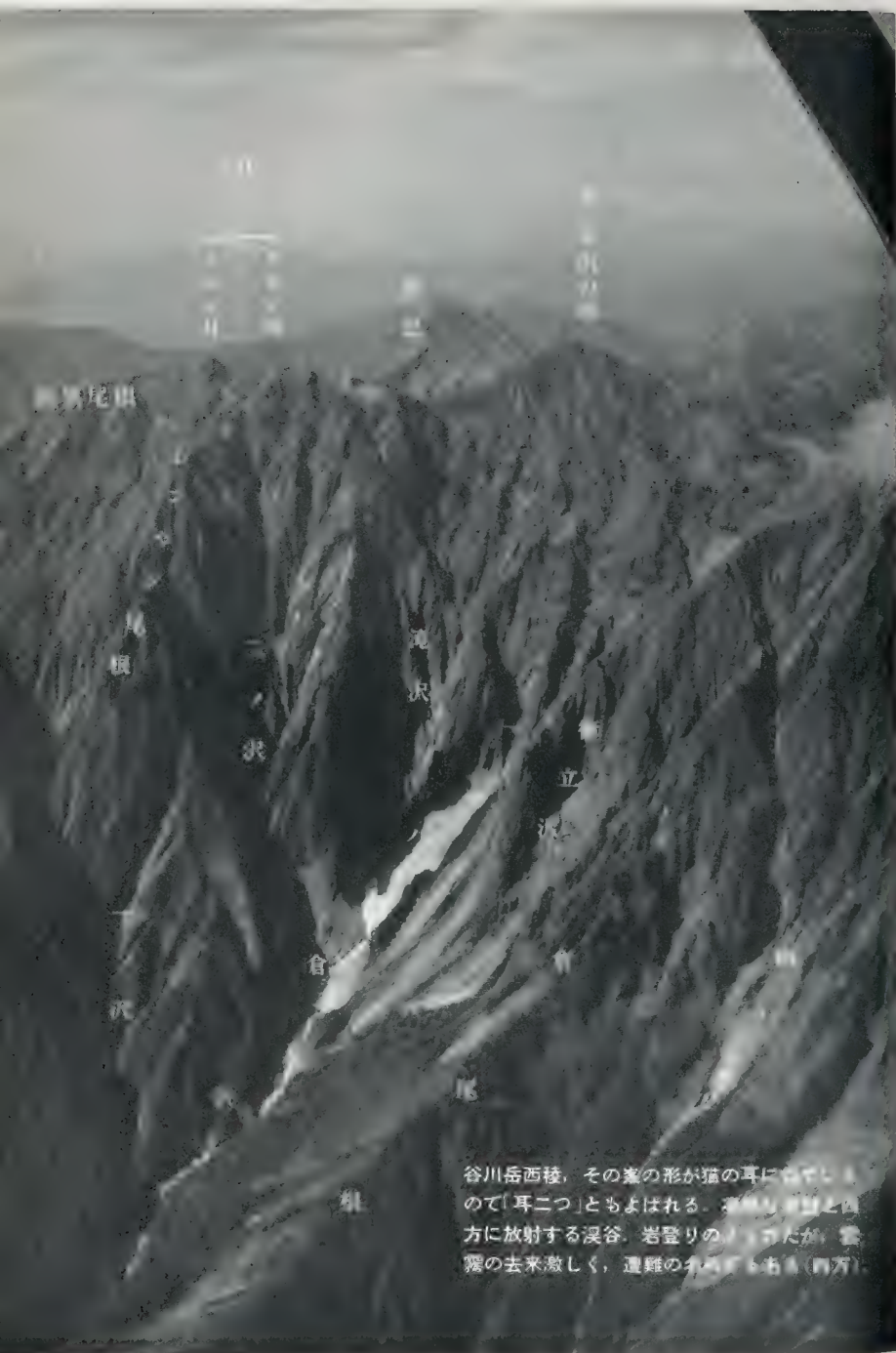
上牧は奥利根入り諸温泉の関門に当るところ．近くには高橋お伝の生家，白木屋お駒の墓がある．渓谷に春は蕨狩り，秋は茸狩りも，結構である．

水上町，利根川の左岸(四万).

水上町，上流よりみる(四万).

右岸に阿能川を合わせてから約1km，上越線の水上駅．渓谷に小日向，湯ノ原，鶴ノ瀬，大穴，谷川，湯檜曽などの温泉がならび，みな水上村にあるので，総称して水上温泉という．水上駅の北2 km には石器時代の住居址．奥利根にはかなり古くから俗にアイヌという先住民族が入りこんでいた．大和民族は前橋に発展していった．アイヌは前橋を和人の女のいる所となづけた．

正面が湯檜曽川の谷，左に雲をかぶる谷川岳.

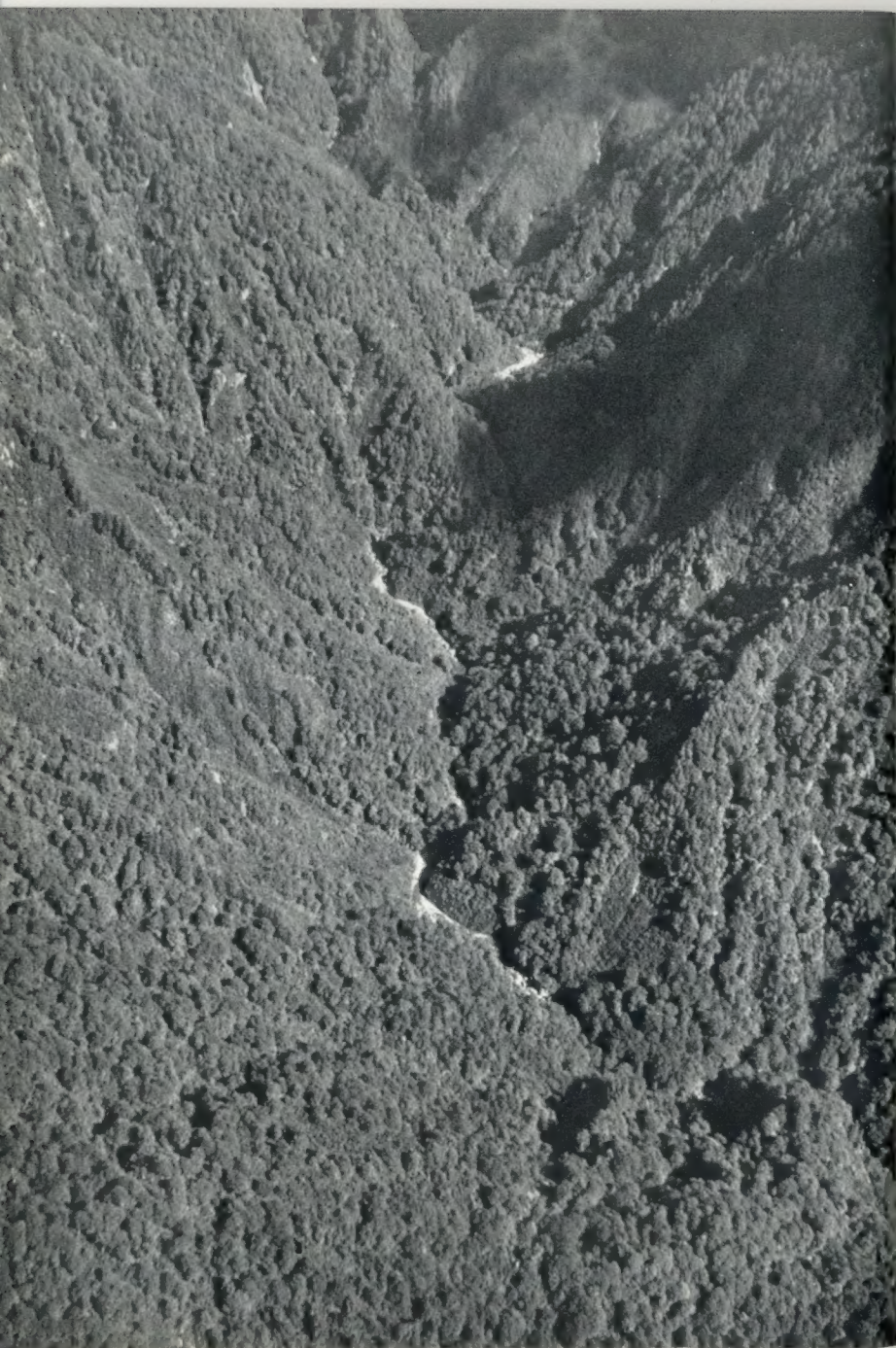
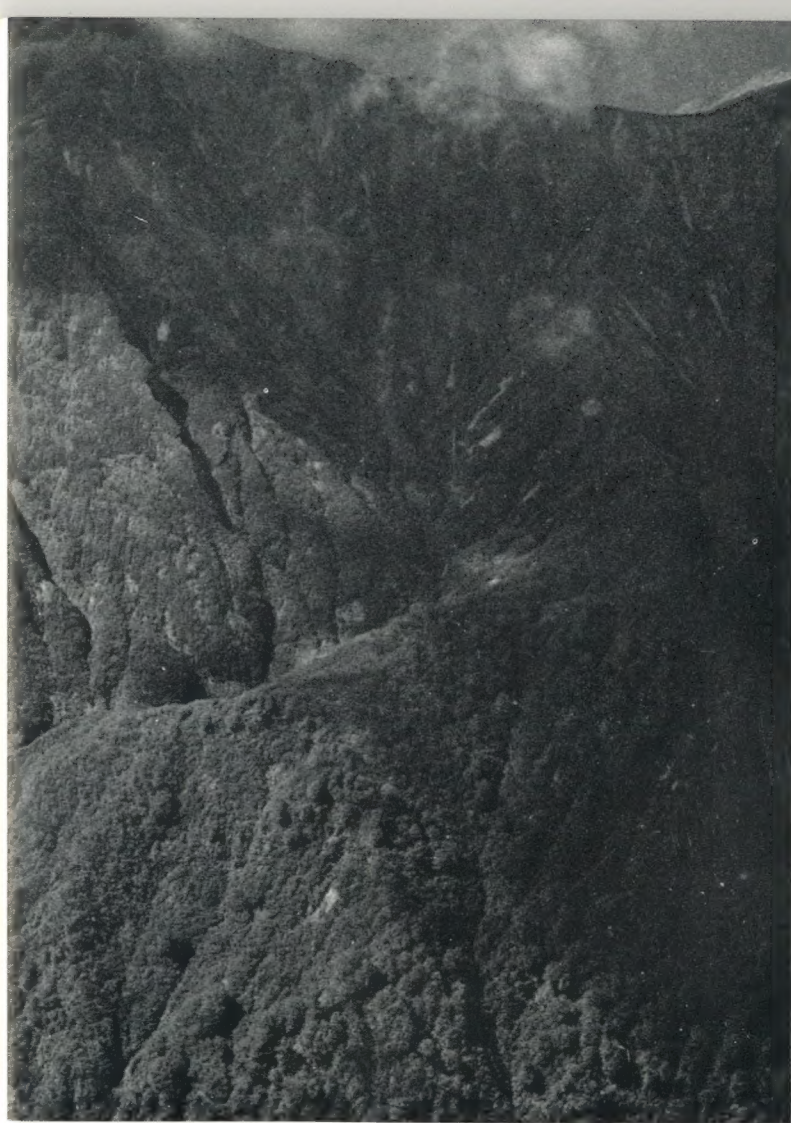
水上駅から約2.5kmで大穴，西から湯檜曽(ゆびそ)川が右岸に合する．上越線はここから湯檜曽川沿いに三国山脈の清水峠トンネルへぬけてゆくが，利根は帝釈山脈の西側渓谷を東へさか上る．

湯檜曽合流点よりやや上流，綱子の村，発電所が建設中(追貝)．

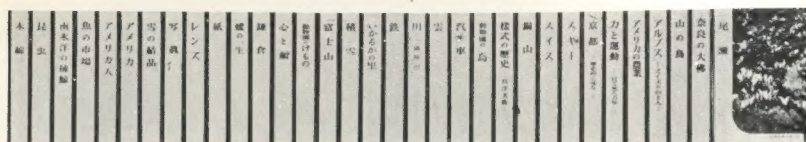
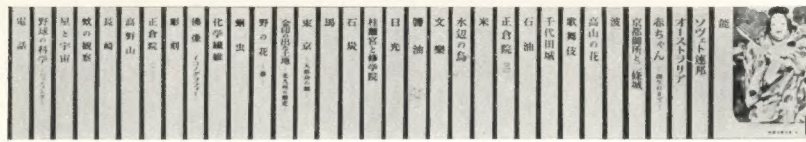
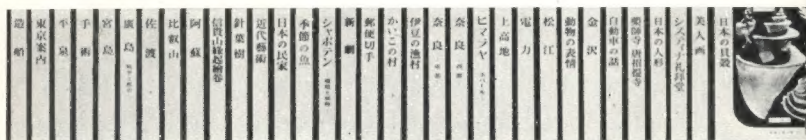
大穴を下流よりみる，正面の谷が利根川，左に分れるのが湯檜曽川(四万)．

楢俣川合流点より下流をみる(藤原)

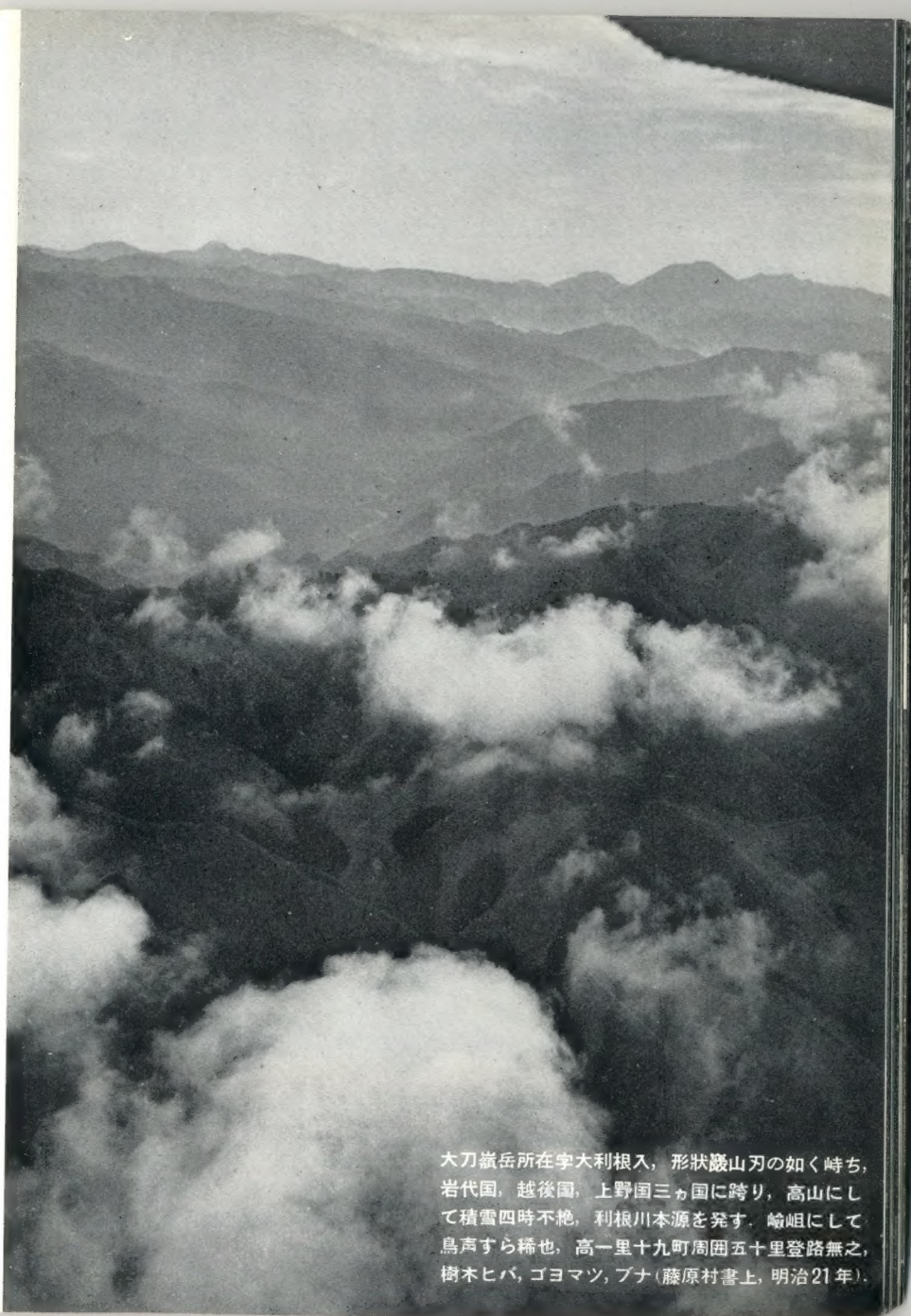
須田貝の発電所建設工事．発電能力は年間1.6億キロワットの予定(藤原)

聚落は昔の罪人が移住した所だという藤原附近で終りになる，楢俣川合流点で川幅は50mに狭まり，両岸に花崗岩が露出，その地相を利用して奥利根綜合開発の工事が進められている．

須田貝の発電所建設工事(藤原)

河幅はもう僅か 5〜10 m，シッケイガマワシ，オイックイとよばれる絶壁が迫る．ブナ，ミズナラ等の原始林は，やがて越後沢を境として，灌木と変り，山膚が露出し初める(八海山)．

シッケイガマワシとはカモシカの子しか通わぬ所を意味するといい，オイックイは両岸の絶壁がおいかぶさって見える所を意味するという．嶮岨なその奥谷を上り，源泉を探った人はまだ数えるほどしかない．昔，利根の水は文珠菩薩の乳から落ちると噂された．だから水源を駒ヶ岳(文珠岳)と信じた．明治の頃には兎岳がそれだと思われていた．兎岳は尖った嶺で利根の義に通ずるわけだが，実の水源はそれより南，丹後山との中間にある，頂上の平らな一峯(1,850)に発している．地図には書かれていないが，大水上山，利根岳等とよばれている．

岩波写真文庫目録

既刊

新刊

近刊　伊豆半島　日本の森林　高知県 —新風土記—　チェーホフ

B 6 判　64 頁　写真平均 約 200 枚　定価 各 100 円

大刀嶺岳所在字大利根入，形状巌山刃の如く峙ち，岩代国，越後国，上野国三ヵ国に跨り，高山にして積雪四時不絶，利根川本源を発す．嶮岨にして鳥声すら稀也，高一里十九町周囲五十里登路無之，樹木ヒバ，ゴヨマツ，ブナ（藤原村書上，明治21年）．

渋川町．吾妻川との合流点（地理調査所五万分ノ一地図'沼田'）

¥100